

5 肢体不自由養護学校

(1) 個別指導計画作成の手順

1 プロフィール（様式1）の作成 《記入者：担任》

- (1) これまで収集した基礎資料をもとに記入する。
- (2) 不足の情報に関しては、連絡帳やその他の方法により確認をして記入する。
- (3) 保護者や担任の負担軽減のために、学年が替わるたびに重複した内容を記入しないように配慮する。

医療面での特記事項（生命の維持と安全、病歴） 医学的な配慮事項、治療の経過、服薬
脳波、健康管理

生活面での特記事項（生育歴） 発達の経過、就学前の様子、養育環境

諸検査の記録（検査名、検査結果） 標準化された検査情報

学習面での特記事項 障害の現状、基本的生活習慣、心理的適応、環境の認知、運動・動作、意思の伝達

保護者の願い 生活上の課題、将来の希望、保護者の教育に対する考え方、学校への要望
余暇利用への課題

2 長期個別指導目標（様式2）の作成 《記入者：担任、担当者》

- (1) 児童生徒の実態と指導経過・評価をふまえて指導目標を設定する。
- (2) 学校・学部の目標とのつきあわせも必要である。
- (3) できるだけ具体的で実現可能な目標とする。
- (4) 指導方針の作成は、本人の発達にとって持つ意味やその実現の見通し、指導上の留意点を含み目標に対応させていく。
- (5) 担任が記入後、各教科、学年の担当者会で検討をする。
- (6) 学部会、ケース検討会等で検討し全体での共通理解を図る。

3 個別年間指導計画（様式3）の作成 《記入者：担当者、担任》

- (1) 指導目標、指導方法及び授業形態を集約して、各教科等の指導内容を検討し、単元名や指導内容を設定していく。指導者、指導の時期、場所等の条件を考慮する。
- (2) 担当者間で検討し、領域・教科ごとに設定する。
- (3) 担任との共通理解を図る。
- (4) 次の課題を明らかにして、次年度へ引き継ぐ事項を具体的に記入していく。

4 短期個別指導目標・計画・評価（様式4）の作成 《記入者：担当者》

- (1) 各担当者が、領域・教科ごとの年間指導目標をうけて、具体的に指導計画（学習のねらい、手立て）を設定する。
- (2) 評価は、その単元での成果や変化について記入する。ねらいの達成度や、時間、回数、方法など具体的に記入する。

5 評価の観点及び留意点

- (1) 各担当者が評価したものを集約して、達成状況を把握する。
- (2) 担任・各教科担当者は、指導記録をもとに保護者や寄宿舎、その他関係機関と必要に応じて話し合いを持ち共通理解を図る。特に、保護者との話し合いを重視する。
- (3) 記入方法については、具体的で、目標達成までの過程を簡単でわかりやすく工夫する。

プロファイル

(様式1)

小学部「重度・重複教育の課程」										平成 8年〇〇月〇〇日作成							
(2) 小学生の事例 (森川 2年生)																	
氏名	○○ ○	昭和〇〇年〇月〇〇生	性別	男・女	学級	○年〇組	担任名	○○ ○○	住所(連絡先)	補助具使用等	車いす使用						
障害名	脳性小児まひ(水頭症、無脳症)										手帳番号	○○○○号	○種	○級	療育手帳	生育歴(措置歴)	体調のゆるす限り、いろいろなことを積極的に経験させたい。
障害部位(まひ等)・障害の現状(身体の様子、体調及び配慮事項)										早期破水。	将来は施設などに入る可能性が高いことを考え、環境への適応力を高めたい。また、名前を呼ばれた時になんらかの表出ができるようになって欲しい。						
○水頭症による頭部肥大があり、頭囲82cm。シャントは入っていない。 ・定頸なく、頭部が細いため抱く時や姿勢変換時に頸部損傷のないよう要注意。 ・頭頂部に骨の無い部分がある。皮膚1枚なので衝撃が加わらないように保護。 ○上下肢の緊張強く、肘・膝・足首・手の手根部に硬縮あり。右股関節脱臼。 ・頭部は左向きが安定するが右向きも可。車いす・リラックスチェアー上ではクッションを使用して姿勢を安定させれば70度位まで起こしての支え座位可能。										・○○○○園通園。	検査結果(遠城寺式)	病歴(治療・医療相談の経過及び結果)	病歴(治療・医療相談の経過及び結果)				
基本的生活習慣(介助の度合い等)										発作の有無	発作有。目が片方に引かれ手先が硬直。奇声を発し脈が速くなる。現段階では薬によりおちついている。	○せんそく:喉がヒューヒュー鳴り呼吸が苦しくなる。体を起こし白湯などの水分を取り安静。長く続く場合は座薬使用し吸入。	・平成〇〇年〇月〇日喘息発作のため○○病院に入院(1泊)。				
食事・栄養・水分										・発作有。目が片方に引かれ手先が硬直。奇声を発し脈が速くなる。現段階では薬によりおちついている。	○皮膚が弱く、かぶれやすい。頭部は擦れにより腫しそうができる。	○貧血	・目やにが出やすい。花粉症、アトピー有。				
○細かいきざみ食、主食は普通食 ・普通食にはさみを入れる。麺類も刻む。パン牛乳に軽くひたす。 ・給食は牛乳全量、おかず半量とれることが大であるが体調により変化大きい。 ○水分:冬場はココア、他はジュース。100cc										抗てんかん剤 朝夕1日2回	体温 冬場34度台 夏場36度台 心拍 呼吸	体温 冬場34度台 夏場36度台 身長 116cm 体重 23kg	訓練:P.T. 月1回 OT(摂食) 2か月に1回程度 主治医:○○病院 歯科は口腔センター				
排泄										移動	更衣	投薬	・運動・動作				
おむつ使用。学校では3回程度の排尿。 脱水になると排尿が少なくなったり、頭頂部がへこむ。排便は母親が綿棒でかきだして										・頭部肥大のため上着も足から通して着る。	・手足の感覚が過敏である。 ・足の感覚が過敏である。	・身体の成長が著しいため拘縮、側わん予防のため配慮が必要。また、骨が細く密度が薄いため骨折の予防と骨の強化の必要がある。					
心理的適応										意志の伝達(コミュニケーション)	触覚 聴覚 視覚	・全身の緊張が強い。機能訓練を中心とした日常生活での身体のリラックスを得る(姿勢の転換、クッションなどでの姿勢の安定)ことが情緒の安定に大きく関わっている。					
対人関係										情緒の安定	意欲	○発声有り。人とのかかわりの中で声を出すこともある。 ○表情の変化(笑み、顔をしかめる)や発声で感情を表出することができる。	・常生活の中で身体のリラックスを得る(姿勢の転換、クッションなどでの姿勢の安定)ことが情緒の安定に大きく関わっている。				

(様式3)

平成8年度 個別年間指導計画

小 学 部	○年 ○組	生徒氏名	○○ ○○	作 成 者	○○ ○○	作 成 日	8年○月○日
指 導 目 標		(1) いろいろな感覚経験の幅を広げることができる。 (2) 情緒の安定を図り、いろいろなはたらきかけを受け入れることができる。 (3) 人とのかかわりを深め、感情の表出や発声が増える。 (4) 人や物とのかかわりを深め、周囲の雰囲気を感じとることができる。					
項 目		1 学 期		2 学 期		3 学 期	
養 護	食 事	摂食動作（食物を取り込む、飲み込む） 適量の摂取 噛む動作と上唇での取り込みの向上。					
	排 泄	水分量の確保					
	健 康	体調を安定させ、一日落ち着いて過ごせる。 健康観察（呼吸、体温） 摂取水分量の確保					
・	朝 の 会	朝のあいさつ うた 呼名－返事					
訓 練	くんれん	心身のリラックス 拘縮、変形の予防。					
	うんどう	全身を使った大きな動きなど運動感覚刺激の経験。姿勢や動きを感じ取る。 ロールマット すべり台 シーツプランコ トランポリン					
	リズム	音楽やうた、人とのかかわりを楽しみながら体を動かす経験。 ドラネコロックンロール 手のうた なかよしリズム ぼくのミックスジュース REMAC					
	あじわう	味やにおいの経験と、嗜好の幅を広げる。感触や温度を感じ取る。 いちごフル					
	みる きく	人の声や音を意識したり雰囲気を感じ取る。発声や感情の表出。 パネルシアター 紙芝居 人形劇					
	ふ れ る	触れる経験を増やす。 外出よう 小麦粉あそび 水あそび					
評 価							

平成8年度第○学期 短期個別指導目標・計画・評価

学部・学年	小学部 ○年○組	作成者名	○○ ○○	作成日	平成8年 ○月 ○日
児童氏名	○○ ○○	評価者名	○○ ○○	記入日	平成○年 ○月 ○日
指導目標	(1) 食事・水分の摂取量が増え、体力をつける。 (2) 場面や人が変わっても、落ちついて変化を受けとめることができる。 (3) 人とのかかわりを深め、笑みや発声が増え、快の状態が増える。 (4) 人やものとのかかわりを深め、雰囲気の変化に気づくことができる。				
指導にあたって参考となる事項				健康上配慮する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 適切なポジショニングが心身の安定に大きく関与する。 快の表出：全身の弛緩。笑みを浮かべる。発声がある。 不快の表出：全身の緊張。口をすぼめ眉間にしわをよせる。泣く。顔面に血管が浮き出る。(青筋が立つ) 視覚でとらえることが難しいので、適切な言葉掛けで心理的な不安を軽減させる。 				<ul style="list-style-type: none"> 頭部、頸部への衝撃を避ける。 発作時は脈が落ち着くまで様子を見る。 喘息を持つためほこりや急激な温度変化に注意する。(常時呼吸状態を見る) 	
項目	学習のねらい		手 だ て		評価
養護	食事	<ul style="list-style-type: none"> カロリー摂取を第一とし、おかげ半量と牛乳全量を取る。 噛む動作と上唇での取り込みの向上。 		<ul style="list-style-type: none"> 体調に合わせた適切な食形態を作る。 食事量が取れない時は疲労しない程度に時間を延長する。 摂食動作の学習は体調に合わせ適時行う。 	
	排泄	<ul style="list-style-type: none"> 便秘の解消。(便の軟化を図る) 		<ul style="list-style-type: none"> 水分量の確保と腹部の運動を行う。 	
・	健康	<ul style="list-style-type: none"> 体調を安定させ、一日落ち着いて過ごせる。 体力の維持増進を図る。 水分量を確保する。 		<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連携で体調を把握し、呼吸、体温、緊張の度合などの健康観察を細かに行い、活動や休息の配分を行う。 体調に応じ養護教諭との連携をとる。 排尿量に応じ水分量を増減する。 	
	運動動作	<ul style="list-style-type: none"> 心身のリラックスを図り、楽な体で過ごす。 拘縮、変形、じょくそうの予防。 		<ul style="list-style-type: none"> 機能訓練による弛緩の学習と可動域の維持を行い、身体の楽な状態を適切なポジショニングにより維持する。 体位の転換を行い、身体一部への長時間の負荷を避ける。 楽な姿勢を把握し呼吸援助を行う。 	
練習	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな人や様々な環境に触れる経験を増やし心理的適応力の向上を図る。 人とのかかわりを楽しむことを通して、発声や豊かな感情の表出を図るとともに、周囲への意識性の芽生えを育む。 種々の感覚経験の幅を広げる。 		<ul style="list-style-type: none"> 適切な言葉掛けにより状況を伝え心理的不安を軽減する。 いろいろな人に抱いてもらう、 快状態を把握し、発声を促す環境を設けるとともに周囲に意識が向くようなかかわりを持つ。 発声や微細な動きをていねいに受け止め、返していく。 快状態での経験を基本とする、受け止めやすい環境を設定し経験の積み重ねを行う。 		
	その他				

ノーフラ

中学部 [重複教育の課程]

平成8年〇〇月〇〇日作成

(3) 中学部 3 年の事例 (様式は略)

© 2010 Pearson Education, Inc.

平成 8 年度 長期個別指導導目標

(様式2)

平成8年度 長期個別指導目標										中学部				
氏名	○○ ○○	所属	中	○年○組	障害部位	四肢まひ 特に右手足はまひ頭著 とんかん	車いす、自力移動可、立ち可、U型歩行車利用可	段差要介助可、U型歩行車利用可	作成者	○ ○○	作成日	平成8年○月○○日		
性別	女	担任名	○○ ○○	日常生活	生活単元学習	作業学習	国語	数学	音・美	体育	養・訓	進路	行事	その他
実態	可。	衣服の脱ぎ可。時間かかる。着脱部介助。失禁あり。	自分で、とが動かない。	細かい作業可。周囲に気をとられることあり。	小声で不明白な話をすることあり。小さな読み可。	歌謡曲を好み、歌うのが丸で大きい顔を表可。	膝関節の拘縮有り。姿勢が前傾しやすい。	高等部どもは先達ですが、そのメーンでない。	高齢者はおむすびが、その場に合はないことが多い。	膝関節の拘縮有り。姿勢が前傾しやすい。	活動的にマイペースの動きで参加。	役割を果たす教師や友達を求めることが多い。	できるところとできないところとが多いために援助を待つことが多い。	
課題	早く脱ぐ。	丸首の上着を着る。失禁をしない。	経験のこと大きさを増やす。責任をもちたす。役割を果たす。	細かい作業可。周囲に気をとられることあり。	はっきり話す。かながほば読みが書ける。	歌謡曲を好み、歌うのが丸で大きい顔を表可。	各関節の拘縮を予防する。背筋の力を付ける。	各関節の拘縮を予防する。背筋の力を付ける。	一人で活動することをできる。	一人で活動することをできる。	お金を稼ぐことを意図する。	お金を稼ぐことを意図する。	できるところとできないところとが多いために援助を待つことが多い。	
指導内容	衣服の着脱は恥ことのか意識化。	失禁は恥ことのか意識化。	買物、公用機関の利用等の諸準備	運動、交通の利用等の諸準備	生活単元学習	作業学習	国語	数学	音・美	体育	養・訓	進路	行事	その他
評価	基本的生活習慣の育成	運動・動作、環境の認知	コミュニケーションの習得	集団生活への参加	日 常 生 活	経済的活動・公共機関	その他							
実態	食後の口、手などの汚れをあつまいで着脱する。排水失敗あり。	つかまり立ち、U型歩行車の利用可。(短距離)両手使用可。右腕は強いて左腕は弱く。作業で言葉に困る。	はつきりとした発音で会話可。自信がないこと、不明瞭に話すことが多い。	CDの楽しませがいいと、自分の家庭で不規則な生活が多いことがあり、遅刻が多い。	CDの鑑賞や手芸など、急いで行動する。早い時刻に登校する。	簡単な買物は一人でできる。バスや電車の乗り方などがほぼ分かる。	できるところとできないところとが多いために援助を待つことが多い。							
課題	食後の整容を習慣化する。自分で着脱は持つ。排泄が確実にできる。	各関節の拘縮予防と、筋力の強化。方向性の向上。言葉による位置関係がわかる。	分からぬ場合もはつきりと意思表示ができる。皆の前で話す時は丁寧な言葉で話す。	急いで行動することができる。	売場を探索して、メモを見るながら買物ができる。銀行などの役割とお金の大切さが分かる。	できるところとできないところとが多いために援助を待つことが多い。								
指導内容	食後の矯正での確認。	各関節の運動、筋力強化の運動。両手をを使う作業の継続と、位置関係との対応。	素早い行動の称賛。	翌日の活動を予告し目的を持たせて、早い時刻の登校を協力して依頼する。	買物学習・郵便局の利用	素早い行動の称賛。								
評価														

平成8年度第〇学期 短期個別指導目標・計画・評価

(様式4)

学部・学年	中学部 ○年○組	作成者名	○○ ○○	作成日	平成8年○○月○○日
生徒氏名	○○ ○○	評価者名	○○ ○○	記入日	平成○年○○月○○日
指導目標	(1) 決められた当番の活動、授業の諸準備を、指示を受けずにできる。 (2) 聞き直された時に、自分で丁寧な言葉に言い直すことができる。 (3) 修学旅行で、新幹線の利用、京都を知る。友達と協力して、係活動ができる。				
指導にあたって参考となる事項				健康上配慮する事項	
<input checked="" type="radio"/> 姿勢の崩れを防ぐため、机上での学習は普通のいすを使用する。 <input checked="" type="radio"/> 斜視あり。				<input checked="" type="radio"/> てんかん薬服薬中。発作はここ数年無し。	
項目		学習のねらい	手だて		評価
日常生活の指導	養護・訓練	運動動作	<ul style="list-style-type: none"> 膝・股関節の拘縮を予防する。(膝は伸展で床から4cm隙間あり) 腹筋背筋の維持・強化。 歩行機能の維持。 	<ul style="list-style-type: none"> 膝関節の伸展。股関節の内転・外転、伏臥での伸展。 腹筋、背筋15回。 U型歩行車での歩行。100M。教室間の移動も、できるだけ歩行車を利用する。 	
	食事		<ul style="list-style-type: none"> 食事後に、自分から鏡で汚れを確認できるようにする。 食べられる分量を最初に考えて減らし、決めた分量を時間内に残さず食べられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> きれいにできた時に、複数の教師が誉め、意識化する。 食事を始める前に、いらない分がないかを確認する。残さず食べられた時は、片付けを援助し休み時間を増やし楽しみを味わわせる。 	
	排泄		・排泄の失敗をなくす。	<ul style="list-style-type: none"> 成功している時には、後始末を手伝うなどして、休み時間と一緒に楽しむ楽しさを味わわせる。 失敗した時は、みんなに分かると恥ずかしいことをしつかり話す。 修学旅行を意識させ、失敗に気をつけさせる。 	
	健 康		・早寝早起きを意識させる。	<ul style="list-style-type: none"> 次の日の活動内容を話して、期待感を持てるようにし、遅刻しないよう意識させる。 家庭に協力を求める。 	
	着脱		・トレーナーを5分以内で正しく着ることができる。 ・トレーナーを大まかに畳むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> タイマーで時間を図り、早く着替えることを意識させる。 袖→裾という順番を繰り返し練習させる。 	
	係活動		・決まった流れに沿って、はっきりと丁寧な言葉で一人で司会や号令ができる。	<ul style="list-style-type: none"> やや時間がかかるても認め、一人でするよう励ます。 	
	生活単元学習		・修学旅行の係活動を、友達と協力して進めることができる。 ・新幹線、京都について知る。 ・思い出を簡単な文で表すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 分からることは、友達に聞き、できることは一人で頑張るよう促す。指示は控え、あとで一緒に確認し気付かせる。 絵や写真で繰り返し説明する。 本人の言葉をできるだけ受容し、共感しながら、思い出をたくさん話せるようにする。 	
	作業学習		・作業に集中して取り組む ・色違いの紐の間をジグザグに通す通し方が分かる。 ・自分から必要な用具を準備できる。	<ul style="list-style-type: none"> 目標数を決め、シールで目に見えるように表し、意欲を持たせる。 紐の持ち方を一つ一つ指示し、繰り返し練習させる。 指示を控え、準備できるのを待つ。できたら称賛する。 	
	国語		・はっきり丁寧な言葉で話す。 ・ワープロで、3~4文字程度の単語を、一人で正しく打つ。 ・「ば、や」の形を整え、ひらがなで名前を書く。	<ul style="list-style-type: none"> 授業中は丁寧な言い方で話させる。 自分で考えた単語を一人で打つ練習をする。 長く、短くなどの言葉を掛け、形を意識させる。 	
	数学		・土・日・月の順番が分かる。 ・4までの数の物を正しく数える。	<ul style="list-style-type: none"> カードなどで繰り返し練習をする。 色々な物で3, 4個を数える練習をする。 	
その他		・授業の準備、移動を遅れずに済む。 ・分からぬ時の意思表示をはっきりする。	<ul style="list-style-type: none"> 指示を控え、早くできた時は他の部分を援助し楽しさを味わわせる。 はっきり意思表示できるのを待つようにし、促す。 		